

進化するエイズウイルス 人類は克服できるか?

サイエンスに興味をお持ちの一般の方々をはじめ、
中学・高校・大学生、医療関係者・研究者のご来場を歓迎いたします。

2013年6月16日(日)
13:00-18:00

於：国立感染症研究所
戸山庁舎共用第一会議室

世界三大感染症の一つであるエイズ。抗HIV薬の導入より15年以上を経た今日、未だに毎年250万人以上が新たにHIVに感染し、世界の感染者数増大が続いています。それとともにHIVは進化しつつあるということがわかってきました。本シンポジウムはこのHIV進化のメカニズムに迫るとともに、進化するHIVの克服に向けた最先端の取り組みを紹介します。

プログラム

1. 対HIV感染症総合戦略：ワクチン開発
俣野哲朗(国立感染症研究所)
2. サルから来たHIV：ヒトへの適応
明里宏文(京都大学)
3. HIVの仲間と哺乳類の進化
宮澤正顕(近畿大学)
4. 細胞防衛システムから逃れるHIV
岩谷靖雅(名古屋医療センター)
5. 変わらないコア蛋白：構造生物学
佐藤裕徳(国立感染症研究所)
6. 変化する表面蛋白：抗体と薬の標的
吉村和久(国立感染症研究所)
7. 潜伏して免疫から逃れるHIV
横田恭子(国立感染症研究所)
8. 進化するHIV：その克服に向けて
滝口雅文(熊本大学)



事前予約不要

問い合わせ先
国立感染症研究所
エイズ研究センター(俣野)
162-8640 新宿区戸山1-23-1 TEL:03-5285-1111(内2302)
matano@ims.u-tokyo.ac.jp
<http://www0.nih.go.jp/niid/ARC/>

平成25年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業

HIV持続感染成立機構とその防御機序に関する研究(俣野哲朗)
HIV-1感染・発症長類モデル研究：宿主内因性及び獲得免疫解析に基づく前臨床評価システムの最適化(明里宏文)
APOBEC3分子のタンパク質レベルの機能性多型を基礎としたHIV-1複製抑制機構の分子基盤の解明(宮澤正顕)
抗ウイルス宿主因子を基盤とする新規抗HIV戦略の開発・確立に向けた系統的研究(足立昭夫)
HIV Gag蛋白質と関連因子の治療標的構造の解明に向けた統合的研究(佐藤裕徳)
HIVエンベロープの治療標的構造に関する研究(吉村和久)
HIVの潜伏・再活性化および慢性的免疫活性化を左右する細胞因子・免疫応答の解明とその制御(横田恭子)
HIV-1の薬剤・免疫耐性変異獲得機序の解明と新規治療法を目指した基盤的研究(滝口雅文)